

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育学部教育者養成の理念に基づいたアドミッションポリシーを明示し、受験者に目標と内容の理解を徹底する。	→「募集要項・オープンキャンパス等におけるアドミッションポリシーの明示・説明と教授会構成メンバーへの周知」「オープンキャンパス等を利用して受験生への事前相談の実施」	B	B	A	A	A
2. 教育者養成を核としたアドミッションポリシーの理解を学部としてより深める。	→「各種の入試関係の委員会の開催状況」「入試制度検討委員会の開催頻度と検討の進捗状況」「オープンキャンパスでの事前相談の教員配置状況」	B	B	A	A	A
3. 教育学部の理念に基づき、収容定員を過不足無く確保するよう努力を行う。	→「歩留まり率検討委員会の開催頻度」	A	A	A	A	A
4. 教育学部の理念と教育者養成のアドミッションポリシーに基づき、学生募集と学生選抜が公正かつ適切に実施されているか検証を行う。	→「入試制度委員会の開催頻度」	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
5. 在籍学生数を学科・コースごとに収容定員に合わせる。	→収容定員(幼児・初等教育学科 幼児教育コース560名、初等教育コース570名、臨床教育学科280名)に対する在籍学生数の比率			B	B	B
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 募集要項や大学のホームページなどにおいて、アドミッションポリシーを明確に提示している。また、オープンキャンパスは、2013年度から西宮聖和キャンパスでの開催を2日間に増やし、受験生にアドミッションポリシーをより具体的に理解してもらうための、様々なプログラムを実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッションポリシーは、次第に定着してきており、オープンキャンパスには多数の受験生・高校生が参加し、大学での学びについて理解を深めている。しかし、アドミッションポリシーを理解せずに入学してくる学生が、ある程度の割合でいることも事実である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か オープンキャンパスを実施するにあたって、受験生により明確にアドミッションポリシーを理解してもらうために、どのような企画を実施するべきかを、引き続き検討していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか オープンキャンパスは、専任教員の半数以上が担当し、職員とともに、受験生の説明事項を事前に検討し、アドミッションポリシーをより深めて共有した。また、1期生・2期生が卒業したことに伴い、入学時の入試の形態と、在学中の成績、卒業の進路の関連を分析する資料を作成して、それをもとに議論を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッションポリシーが浸透していることは事実であるが、教育・保育現場に必要な資質や、卒業後の進路で教員・保育士以外を希望している者をどう考えるかについては、まだ教員の中に様々な考え方があることは否めない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アドミッションポリシーをどう解釈し、どう活かしていくかを、すべての教職員が検討していく必要があり、何らかの形で議論する場を設けるべきであると考えます。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか それぞれの各種入試・一般入試において、合否判定委員会を実施した。一般入試の合否判定においては、昨年度までのデータなどを参考として、歩留り率を検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年度4月1日現在での1年生の学生数は、353名であった。定員350名とほぼ同数であり、ほぼ目標通りの入学者数となった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 改組を行ってから2回目の入試であり、受験生の動きについては、はっきりとした実態を把握できたわけではない。入試課が持つ全学的なデータも参考にしつつ、受験生の併願パターンや、入学手続きの傾向性など、さらなる把握、分析が必要である。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度において、入試制度検討委員会を年4回実施して、グローバル入試の選抜方法をはじめ、AO入試の集約化など、全学での入試の新たな動きについて検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 全学的な動きに関しては、基本的に可能な範囲で対応することとした。しかし、グローバル入試やAO入試については、教育学部ならではのカリキュラムや学生の志向があり、他学部と同じ性格の入試を行うことは、困難な面があることも明らかとなった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か AO入試の選抜方法や、グローバル入試で合格した者に対応したカリキュラムなど、各種入試の全体像や、各種入試での合格者に対する教育を中心に、これからの入試のあり方について、入試制度検討委員会を中心に考えていく必要がある。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度の入学者数において、幼児教育コースが定員を下回っていたので、2014年度入試の幼児教育コースの指定校推薦対象校を、34校新たに増やし、教員が分担して新規に指定した高校を訪問した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		2014年度4月1日現在での1年生のコース別学生数は、幼児教育コースが145名(定員140名)、初等教育コースが131名(定員140名)、教育科学コースが77名(定員70名)であった。幼児教育コースは、指定校を増やしたことも関係して、定員を上回る入学者であったが、初等教育コースの入学者が定員を下回った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		初等教育コースの指定校推薦対象校を、2015年度入試において新たに50校増やすことを決定した。西日本の高校については、教員が分担して訪問する予定である。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	350	350	350	350	350	
指標2	志願者総数	人	3,457	3,933	3,858	4,093	3,837	
指標3	合格者数	名	927	1,070	1,022	921	877	
指標4	入学者数	名	381	365	385	356	353	
指標5	志願者倍率	倍	9.9	11.2	11.0	11.7	11.0	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍				1.03	1.05	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	51.7%	49.6%	47.0%	36.5%	36.3%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	700	1,055	1,410	1,410	1,410	
指標9	在籍学生数	名	703	1,065	1,445	1,495	1,476	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	100.4%	100.9%	102.5%	106.0%	104.7%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	0	3	5	7	6	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	5	10	10	10	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	60.0%	50.0%	70.0%	60.0%	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	5	10	7			

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入